

# ただいま!

— あたたかな第2の家庭を目指して —



人と人が集い  
笑いあえる場が!!



コロナ明けの今年度、少しずつですが活動的になり、親子レクも徐々に始まってきました。今回は親子レク、そして学童内の活動も違った形で始まった各学童の様子をご紹介します。



## 親子レク再開!はじめの一步

あおぞらクラブ【富士見学童】

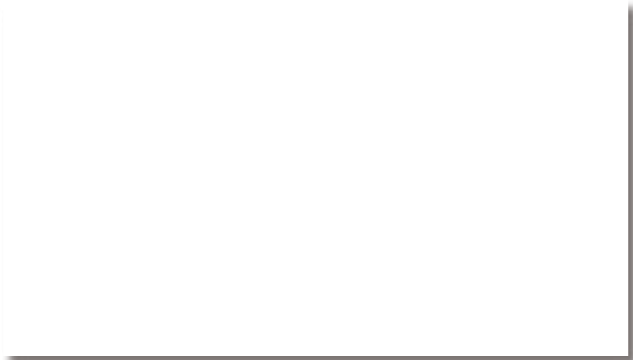
9月3日富士見コミセンのホールで、富士見学童の親子レクを久しぶりに行いました。4種類のゲーム(輪投げ・スリッパとばし・ストラックアウト・トッシン)を親子がチームになって回り、合計点数を競いました。

内容については親子レク係の皆さんが、4年ぶりということもあり「親にも子にも負担が少なく、気軽に参加し楽しめるように」と考えてくれました。また他にも景品の買い出し、輪投げやスリッパとばしの道具の調達、司会進行や審判なども担当して頂き、無事に開催することができました。

当日は、一生懸命挑戦し、親子がお互いを応援して高得点がでると「すごい!」と盛り上がり、友達にも声援を送っていました。また待ち時間には、ホールの隅や休憩室で学童から持って行ったけん玉の腕前を披露したり、マンカラをお母さんに教えたり、友達同士輪になってカードゲームで遊んだりして、普段の遊びを紹介する場面もありました。日頃見られない学童の友達との関りを間近で見られて良かったという保護者の方もいて、楽しい親子レクとなりました。

指導員 ● 滝口 寿子





てお話する保護者の方もいて、お迎え時に気軽に挨拶できるようなったことは大きな成果だと思います。コロナ禍で中止が続いた様々な活動ですが、必要だと考えたことは今後も協議を重ねた上で行っていききたいと思っています。

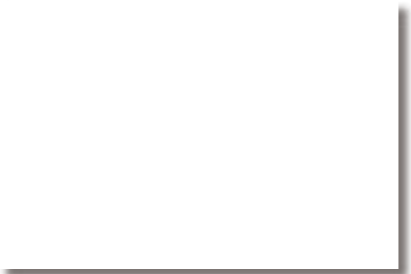
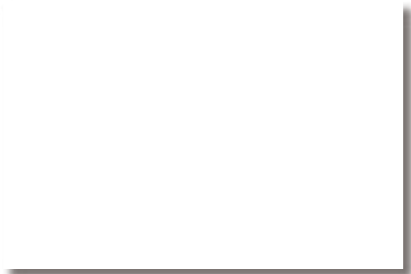
保護者会長 ● 池田 雅子

浜田学童では、保護者同士の繋がりを確保する機会、お互いの子どもを知り合う機会が必要だと考え、7月9日に浜田小学校体育館にて総勢83名で軽スポーツを行いました。  
自己紹介じゃんけん列車から始まり、しっぽ取り、親子で二人三脚、お菓子食い競争やドッジボールなど、様々な軽スポーツを通して親子で汗を流し、楽しむことができました。親子で二人三脚では息を合わせて「いち、に。いち、に。」と声をかけ合いながら走りました。思うようにうまくいかず、大笑いする場面も。お菓子食い競争では、揺れるお菓子に苦戦しながらも、お目当てのお菓子を  
見事ゲット。  
ト。初め



第1学童では【かるたで謎解き宝探し☆】と題して、事前に自宅にて親子でかるたの取り札と読み札を作成して頂きました。どの札も親子で楽しく取り組んでくれたのが伝わり、子どもたちもお家の方と作成したことが嬉しかった様子が感じられました。レク当日は、学童のホールを使ってチーム戦で対決！取れるとチームで喜びあい、おてつきになっても「どんまい！」と応援していました。学年バラバラで編成したチームでしたが謎解きもみんなで答えを導き出し、お宝を見つけると「あった！」と大喜び。子ども達が「遊び」に夢中になる姿がたくさんあったレクとなりました。  
指導員 ● 成田 好

第2学童では、キッズレク係の保護者の方々と考案した「①ピンポン玉お玉リレー」②





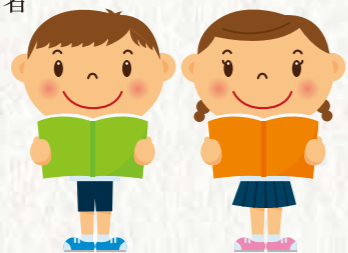
学童保育として設立して41年経過、その間、学童の運営に様々な形で関わらせていただきました。  
NPO法人ががくほれん with 酒田の事務局長を退任して2年、「学童の今昔」を書いてほしいと事務局から依頼がありましたので、昔話になりますが、その一コマを紹介させていただきます。

ここで12年間

### 阿部初代事務局長へ お聞きしました！ 学童保育への思い、 そして学童保育の未来。

地域の方々や小学校に通う児童の保護者の念願が、なつて昭和57年に酒田市に初めて設立された浜田小、若浜小を対象にした浜田学童がスタート。長女が一年生を迎え学童に入所、事務局長を命じられた。そして、3年目を迎える学童内の回り順の保護者会会長になった。この年は、児童募集の段階で25人という過去2年より入所希望者が10人近く減少し運営の危機を迎えた年でもあった。この危機をなんとか切り抜けようと、当時、近隣の保育園、幼稚園の居残り名簿を極秘ながら入手。その居残り名簿を片手に学童の役員が手分けして学童のパフレットを持ち、戸別訪問して入所の勧誘にまわった。その結果、前年度に近い児童数になったものの、指導員に一年間、給与を支払い続けられるか等の不安の中の運営は変わらなかつた。のちに「あの戸別訪問で学童を知った。助かった。」という複数の保護者から謝意を伝えられたときの感動は今も記憶に新しい。戸別訪問して学童を欲していることを実感、需要はたくさんあることを知り、学童の普及啓蒙活動に力点を置く必要性を強く感じたときでもあった。

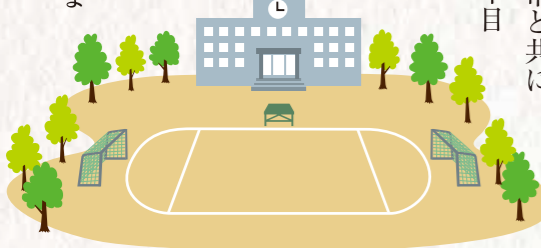
そのような不安定な学童の運営状況下で19年が経過、その間に酒田市街地に亀城・港南、松陵、泉、松原、富士見の学童を市は設立した。浜田を含め6学童になったものの単位学童の運営は不安定なものであった。このままだと「指導員の募集や就業規則等の諸規則の制定、給与の支給、社会保険の加入、ハローワークや税務署、労働基準監



督署等への手続き、市への委託金の申請手続き、各小学校との関係の構築、保育施設の管理等、保護者の運営の負担が大きくなり保護者が大変なことになる。」との危機感から亀城・港南学童の保護者会会長であった佐藤義朗さん（のちの、がくほれん初代理事長）らが平成13年4月に酒田市学童保育連合会（学保連）を設立し学童運営の安定化に踏み出した。

酒田市は、平成19年に学童の施設管理と学童運営を公募による民間の競争原理を導入する指定管理者制度を実施した。このことは酒田市学童保育連合会の任意団体では競争力が劣るとの判断もあり法人化をめざし、酒田市学童保育連合会の事務局長（保護者会長経験者）4人が議論。平成23年2月に非営利団体のNPO法人としてスタート。学保連（酒田市学童保育連合会）を「がくほれん」とし、withは「〜と共に」との意味を持ち、酒田は地域を表しながら酒田市をイメージして、『がくほれんwith酒田』と命名した。がくほれんが酒田市と共に学童を運営することを宣言して、13年目を迎えている。

今、少子化により子どもたちは激減しているが、学童の需要は急速に高まりを示している。子ども達の健全育成をめざし、行政はじめ地域代表の運営委員の皆さんや保護者、法人役員、指導員、事務局が一体となつて、がくほれんの運営の基本方針と保護者ニーズを融合させながら学童がますます発展することを願っています。



### いらっしやい、いらっしやい! にじいるクラブ【泉第2学童】

夏休みの前から、何日もかけ計画と準備をし、二番頑張つてくれた5年生には、みんな大好きブタメンをプレゼント。仕事で疲れた後のブタメンはどうだったかな？たぐさんの成長を見せてくれた夏の思い出でした。



指導員 ● 渡邊 奈央子

最上級生の5年生を中心に、夏休みに何をしたいか計画を立ててもらいました。その中で、「買い物おやつがしたい！」という声があったので、初めての試みでしたが、やってみることに。どんな種類のおやつが必要か、値段はいくらか、誰がどのお店をやるか、子ども達で考え、値札を作り、いざ開店。  
「いらっしやい、いらっしやい！安いよ安いよ！」  
「これは20円だから、10円2枚だよ」と商店街のおじちゃんばりの呼び込みや低学年への気遣いをするなどの優しい一面も見せてくれました。

### 海ごみを利用した万華鏡制作 きらめきクラブ【宮野浦第1学童】 かがやきクラブ【宮野浦第2学童】

きれいな万華鏡でも、ゴミを材料にしていたものを大切に利用する必要も学ぶことが出来た制作活動でした。



指導員 ● 余語 桜

夏休みの制作活動として、パートナーシップオフィスさんをお招きし「海辺の万華鏡づくりワークショップ」をして頂きました。ゴミをポイ捨てすることによって海や、そこに住む生き物が受ける被害などを勉強し、作り方の説明を受け、いざ制作開始！  
3枚の鏡をテープで貼り合わせるのが難しく、曲がってしまったり、向きを間違ったりと大苦戦！ですが、子どもたち同士で協力してなんとか作り上げていきます。  
万華鏡の模様は、マイクロプラスチックやビーチグラスなど。色々な模様を試したくてなかなか選べない子もいましたが、時間をかけて完成！お友達同士で見せ合ったりし、大盛り上がりでした！

### パートナーシップオフィス活動紹介



何かと学童の子どもたちもお世話になる事が多く、今回はお願いして活動を紹介していただきました。

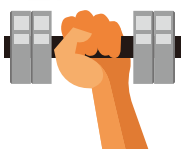
パートナーシップオフィスは川や海の問題、特に海洋プラスチックごみ問題に取り組む、山形県酒田市のNPO法人です。クリーンアップ活動の企画や支援の他に、教育活動にも力を入れています。年間20〜30団体にプラごみ問題の学習講座を提供しています。  
海の問題を身近に感じてもらうため、2019年から海辺で回収したマイクロプラスチック（5ミリ以下の破片・粒子）を素材にした万華鏡制作ワークショップを行っています。  
小さなお子様も親子で楽しみながら学べるアート体験として、5年間で3000人近くが利用しています。



パートナーシップオフィス ● 大谷 明氏

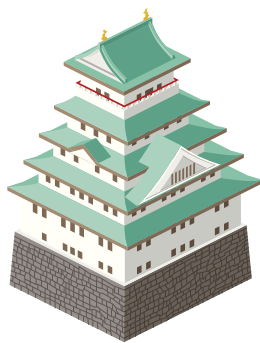
# 健康第一

## 働き盛りの保護者の皆さんが 気をつけてほしい事



ドラマ「どうする家康」では城攻めの場面がありました。城を守るには、まず城壁を高く厚くして敵の侵入を防ぐ。仮に敵が侵入しても城兵を増やして武器を強力にして撃退する。敵を捕まえ情報を聞き取り城兵に共有する。

私たちの身体を「城」に例えたら、城壁が「粘膜免疫」、城兵が白血球やマクロファージ、NK細胞などの「自然免疫」、捕虜からの情報共有がT細胞やB細胞などの「獲得免疫」になります。



（初代がくほれん理事長）  
佐藤 義明氏

酒田地区薬剤師会 会長

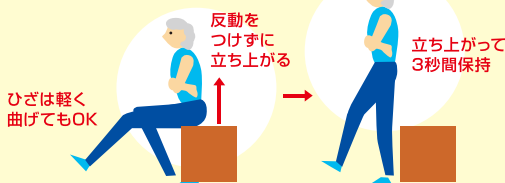
これらの「免疫」を作るのが、日々のバランスの良い食事であり質の良い睡眠です。「疲れ」「冷え」「ストレス」が、心と身体を弱めて病気になる原因となります。免疫力を高めて、これらを寄せ付けない身体づくりをしていきましょう。

## あなたの筋力大丈夫ですか？

骨や筋肉の量のピークは20～30代だということをご存知でしたか？

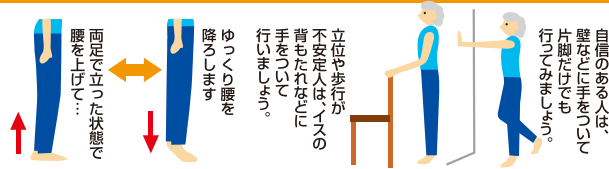
自宅にあるもので簡単に出来る、下肢筋力テストを紹介します。ご自身の下肢筋力を試してみませんか？

椅子（約40cm）に座り両腕を組みます。そこから反動を使わずに立ち上がり、そのまま3秒、保持します。両足で立ち上がった後、次は片足で立ってみましょう。椅子から立ち上がった後、階段の一段目（約20cm）からはどうでしょうか？ ぶらつかないで出来ましたか？



両足で20cmから立ち上がれなかった方、残念ですが、筋力低下が進行している可能性があります。スクワットやつま先立ちなどの運動をしてみましょう。どちらの運動も10～20回を2～3セット、無理のない範囲からやってみてください。

### ヒールレイズ（ふくらはぎの筋力をつけます）



**ポイント** バランスを崩しそうな場合は、壁や机に手をついて行って下さい。また腰を上げすぎると転びやすくなります。  
1日の回数の目安：10～20回（できる範囲で）×2～3セット

このテストはロコモチャレンジの簡易版です。興味のある方は検索してみてください。（文：佐藤 克実）

## ●ありがとうございます●

### ご寄付をありがとうございます

田宮 和朗様

田宮様はお医者様でもあることから、子どもたちの健康管理に役立つものの購入に充てさせていただけます。続けてのご寄付、ありがとうございます。

赤い羽根共同募金配分事業より

令和5年度は、宮野浦1・2、平田・南平田の4学童へ、同事業の配分を頂き、プロジェクトや机、ビデオカメラ、かき氷機等を、購入させていただきます。また、秋には赤い羽根共同募金箱へのご協力皆様からいただき、ありがとうございました。

### 黄色いレシートキャンペーン ご協力、ありがとうございました

皆さまよりご協力いただいているイオンの「黄色いレシートキャンペーン」の令和5年度受領額は23,700円になりました。

折り紙・色鉛筆・バトミントン等を購入し、がくほれん総会の席上で、全学童へ贈呈いたしました。ご協力ありがとうございました。

人々の活動と繋がりが気薄になつて3年余、世間ではコロナ禍前の日常を取り戻しつつあります。学童保育も少しずつ様々な行事が始まり、活気と笑顔が帰ってきたようです。このような体験が、保護者の繋がりを深め、子ども達の豊かな心の成長のためになつていると思います。